

## 【1】 財政の動向および前年度収支の状況

### 1 財政の動向

令和3年度の一般会計歳入歳出予算は、当初（骨格予算）26,267,000千円、肉付け予算として3月に3,001,700千円を追加しました。その後、4月に28,200千円、6月に241,100千円、9月に1,220,400千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、30,758,400千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算現計35,890,600千円と比較しますと、14.3%の減少となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか3会計総額で当初12,182,700千円でありましたが、9月に157,523千円を増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、12,340,223千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算規模12,016,537千円と比較しますと、2.7%の増加となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で13,137,272千円となっています。これを前年度の9月末時点の収益的支出と資本的支出の合計13,245,069千円と比較しますと、0.8%の減少となっています。

### 2 令和2年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

令和2年度普通会計決算額は、歳入が36,091,726千円（前年度28,793,407千円）、歳出が35,137,890千円（前年度28,070,269千円）、前年度と比較すると、歳入は7,298,319千円（25.3%）、歳出は7,067,621千円（25.2%）の増となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は、953,836千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、855,088千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が0.7%、新型コロナウイルス感染症の影響による景気低迷や税率の引き下げにより法人市民税が21.8%の減となりました。固定資産税は、徴収猶予を実施したことにより土地で6.5%、家屋で3.4%の減となりましたが、償却資産で2.0%の増となりました。市税全体では3.0%の減となりました。

また、市営駐車場の使用料などの減に伴い、使用料及び手数料が11.0%、繰越金が18.3%の減となりましたが、土地・建物の売り払いによる財産収入

が 48.2%の増、財政調整基金などの繰入金が 55.4%の増となったことから、自主財源全体では 3.4%の増となりました。

依存財源では、地方特例交付金が 54.9%の減となりましたが、消費税税率改正による地方消費税交付金が 22.3%の増、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策などによる国庫支出金が 220%の増となったことが、歳入全体に大きな影響を与え、依存財源全体で 36.2%の増となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費では、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による特別定額給付金や、旧安曇川支所等の解体工事などにより 102.5%の増、民生費では、子育て世帯への臨時特別給付金や、朽木こども園の大規模改修工事などにより 4.9%の増、衛生費では、今津保健センターの大規模改修工事などにより 2.7%の増、農林水産業費では、マキノピックランド周辺リニューアル整備完了などにより 13.8%の減、商工費では、新型コロナウイルス感染症の影響で事業収入が減少した市内事業者への支援金や、道の駅マキノ追坂峠売場拡張工事などにより 75.4%の増、土木費では、朽木村井地区の急傾斜地崩壊対策事業や、消雪設備整備事業などにより 9.4%の増、消防費では、消防庁舎（空調設備・火災報知器）改修事業の完了などにより 8.2%の減、教育費では、ICT教育機器整備事業や今津スタジアム改修事業などにより 20.7%の増となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、人件費が 19.1%の増、扶助費が 3.0%の増、公債費が 11.3%の増となり、全体では 11.1%の増となりました。

一般行政経費においては、補助費等が「新型コロナウイルス感染症特別定額給付金」や「地域通貨アイカ」の発行などにより 130.2%の増となりました。

### 3 令和 2 年度収支の状況

実質収支	855,088 千円	(前年度	626,092 千円)
単年度収支	228,996 千円	(前年度	△184,614 千円)
実質単年度収支	△768,013 千円	(前年度	△180,282 千円)

#### (1) 実質収支

令和 2 年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、953,836 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、855,088 千円の黒字となりました。

（実質収支 855,088 千円＝歳入 36,091,726 千円－歳出 35,137,890 千円－翌年度繰越財源 98,748 千円）

(2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、228,996千円の黒字となりました。

(単年度収支 228,996千円＝令和2年度実質収支 855,088千円－令和元年度実質収支 626,092千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、768,013千円の赤字となりました。

(実質単年度収支△768,013千円＝単年度収支 228,996千円＋財政調整基金積立金 2,972千円＋繰上償還金 0千円－財政調整基金取崩額 999,981千円)